

令和2年度 第1回舞鶴市男女共同参画審議会 会議録

【日 時】 令和2年7月15日(水) 13時30分～15時15分

【場 所】 舞鶴市役所別館612会議室

【出席者】 委 員 横山美夏会長、鈴木元副会長、井上啓、大川るり子、  
太田とし子、岡本淑恵、高橋美和子、宮本晋平  
事務局 藤崎部長、山本課長、木下男女共同参画担当課長、  
竹内人権啓発推進係長、川北

【傍聴人】 0 名

【会議内容】

1 開会

2 会長あいさつ

委員の皆さまの一つ一つの意見が、舞鶴市の男女共同参画行政に寄与している。本日も忌憚のない意見を多く出していきたい。

舞鶴市は地に足をつけ地道にしっかりやっておられる。皆様のご助力をいただければと思う。

3 議事

- (1) 舞鶴市男女共同参画計画「まいプラン（第3次）」実施計画  
令和元年度の取組状況について・・・【資料1・参考資料・2】  
資料1「令和元年度取組進捗状況総括表」  
参考資料「令和元年度取組進捗状況調査表」  
資料2「審議会・委員会などへの女性の登用の割合」  
に基づき事務局から説明

《主な意見》

委 員 審議会などへの女性の登用がない委員会は、前年度も登用がないという状況が続いている。

会 長 防災会議には、女性の意見は必要。一般の方でもよいと思うので、ぜひ女性を入れていただきたい。

- (2) 舞鶴市男女共同参画計画「まいプラン（第3次）」実施計画  
令和2年度の取組みについて  
資料3-1「舞鶴市男女共同参画計画「まいプラン（第3次）」実施計画 令和2年度の重点取組について」  
資料3-2「舞鶴市の男女共同参画の推進 取組イメージ」  
に基づき事務局から説明

《主な意見》

委 員 女性のための相談窓口が平日ずっと開設されるようになった。全国的に

は、新型コロナウイルス感染症の影響でDV相談も増えていると聞  
が、舞鶴市ではどのくらい相談が増えているのか。

事務局 「女性のための相談室」を4月15日に開設。5月末時点で相談人数28  
人、延件数58件、うち37件がDVに関するもの。令和元年度同時期  
では相談人数2人、延件数4件。新型コロナウイルス関係の定額給付金に  
かかるDV被害者の申請の受付もしており、それをきっかけに相談につ  
ながった案件もある。

命の危険があるケースもあれば、自治会回覧のチラシを見て、長年DV  
に悩み相談されずにいた方が相談されたケースもあった。相談から支援  
まで女性相談員が関わっている。

委 員 昨年度までの電話相談員は、学習や経験を積まれているがどうされるの  
か。

事務局 電話相談を担っていただいていた団体に、昨年度末に事情を説明しご理  
解をいただいた。今年度からDV被害者支援やDV防止啓発ができる団  
体を目指される。市としては、市内のグループの会合や集まりに出向き、  
DV防止を啓発する市民団体になっていただきたいという思いがある。

委 員 フレアス舞鶴について。2階にあったファミリーサポートセンターが5  
階に移転し、「男女共同参画センター」という感じがしない。市民への  
理解はどのように考えておられるか。

事務局 5階の貸館業務を1階の中公民館に集約した。男女共同参画センターに  
は職員が1名いる。今の時代のセンターの役割、職員が担うべき業務が  
あいまいになってきている。センターは、20年前に市民が運営してい  
きたいということでスタートしたが、時代は変わり、さらに今般のコロ  
ナ禍を経て社会も大きく変わる。このままでよいのか考える時期に來て  
いるのではないか。窓口についても事務局機能を強化していきたいと考  
えている。男女共同参画センター登録団体のヒアリングや市民アンケ  
ート、審議会の意見も聞きながら、今求められるセンターのあり方・役割  
を考え、来年度「まいプラン」改定時には方向性を盛り込んでいきたい。

会 長 次期審議会はフレアス舞鶴のあり方・方向性が大きな議題になる。ヒア  
リング等から実態調査をしていただけたらと思う。

委 員 若い世代に向けた講座、若い世代に何を意識付けたいのか。

事務局 8月1日開催「誕生学」は、命の大切さ、子どもへの性暴力から子ども  
を守るという視点で実施する。

委 員 入り口は「子どもに向けて」だが、親子一緒に参加することで保護者に  
向けてすることになり、そこが重要と感じる。

委 員 防災講座について。避難所経験が一度もないと、聞くだけではわからな  
い。親子で避難所体験など体験講座もあるとよくわかる。

事務局 実体験はもちろん必要だが、災害時に平常ではない状況が長く続くとど  
うなるか、そのために必要な視点は何かを事前にきちんと理解するこ  
とが必要と感じる。「段ボールベッドを作って、楽しかったね。」で終わ  
るのではなく、なぜそうする必要があるのであるのかを理解して実体験を  
すると、実践が生きてくる。防災部門に男女共同参画部門が入る必要性  
もあり、8月実施予定の講座は、防災部門と連携して実施する。

委員 「DV被害者支援の相談から支援へのワンストップ体制」とあるが、今年度件数が激増したのは、努力された結果伸びたのではないかと感じる。相談先について、パンフレットやHPなどで、「字」で読むより、窓口を可視化し、印象付けるようなスキームがあるとわかりやすい。

事務局 相談カードやチラシを、端的にわかるように作り、コンビニやスーパー、診療所に依頼して置いてもらっている。今後も相談先周知について工夫していきたい。

(3) 舞鶴市男女共同参画に関する市民・事業所アンケート調査について

①計画改定のスケジュールと計画改定に向けた視点

②アンケート調査票（案）について

資料 4・5「舞鶴市男女共同参画に関する市民・事業所アンケート調査」に基づき事務局から説明

《主な意見》

委員 資料5にある「社会状況・ニーズの変化」にある表現のうち、「労働力としての女性」における「労働力」というのは、女性の生き方や人間としての生き方ではなくまさに「労働力」。「必要だから働いてくれ」「働いてくれさえいればよい」ととれる表現に違和感がある。例えば「社会を支える担い手」など、自分たちが主体的に生きていく社会、支えていく社会というようなニュアンスを含むものに変えたほうがよい。

委員 女性観・男性観が国によって違う。外国の人が増えているというのを視野に入れたらどうか。

事務局 市民アンケートについて、経年変化を見る設問、国と比較する設問、新しい設問を設けている。事業所アンケート調査については、前回から大きく変えている。アンケート調査をとおして、ヒアリングに協力いただける企業が出るとありがたい。

委員 アンケートに回答してみたが、設問は多いと思わないが、選択肢が多く、全部読むにはかなりの労力が必要。

委員 選択肢に抽象的なものが多く、どういうことか考えながら答えるので時間がかかる。具体的な直感で答えられる選択肢にすることが必要。

委員 アンケートに回答する人の理解力によるところもあり、例えば各種講座について具体例を加えると、誰が答えてもある程度同じイメージで答えてもらえると思う。

委員 市民アンケートについて。DVに関する行政の相談窓口はいろいろある。どこに相談したかわかればよい資料になる。

委員 事業所アンケートについて。セクハラ・パワハラの設問があるが、同僚の嫌がらせもハラスメント。しかし、被害者も加害者もハラスメントという認識がない。設問に入れてはどうか。

会長 パワハラは男女共同参画のアンケートに入るのか。

事務局 事業所向けなので、対策を講じる必要があるものを入れている。

会長 最終的には次期計画に向けてアンケートで意見を聞くものであるので、

舞鶴市としてパワハラがこの計画に入るのか。パワハラはいじめの問題であり、労務管理としては重要だが、男女共同参画の視点は少し違うと感じる。

事務局 今年度人権に係るアンケートを実施するのでそちらとの整合を考え、整理してみる。

委員 「わからない」の選択肢は必要か。「わからない」とは、質問がわからないのか、どれがいいかわからないのか、回答の意図が定まらない。選択肢が多い方が回答しやすく、多くあってもよいと思う。

委員 市民アンケートについて、基本的な「男女共同参画」とは何かを書いてはどうか。フレアス舞鶴についての質問もあり、知ってもらう機会になるので、パンフレットは同封されてはどうか。

事務局 対象者は男女・年代ともバランスよくそろえている。いただいた意見について検討する。

#### (4) その他

##### 現審議会委員の任期の終了について

部長 舞鶴市男女共同参画審議会の委員の皆様には、委員をお世話になり、本当にありがとうございました。特に昨年度は、第2次DV対策基本計画の策定に向けて、審議いただき、市長へ答申いただいた。その結果、今年度から「女性のための相談室」を開設し、専属の女性相談員を設置することができた。近年、激しく変わりゆく社会環境や市民のニーズに合わせ、市は施策を見直したり、工夫しながら事業を実施していったりする必要がある、審議会からのご意見は、大変貴重なものであると感じているところ。委員の皆様には、任期終了後も、ご支援・ご協力をお願いしたい。

委員 審議会に出席することにより、男女共同参画についてより深く考えることができた。

委員 意識付けは本当に難しい。自分自身の意識を変えて学んでいきたい。

委員 一步一步前にすすんでいると感じている。特に女性相談員の設置は大きな成果。1歩ずつでも、ぜひ続けていただきたい。

委員 ここ数年の間に、育児・介護など男性の家庭参加が進んだように思う。これからさらに進んでいけばと思う。

委員 相談件数は激増。決してDV被害が増えたのではなく、相談窓口ができて話しやすくなったのであると思う。埋もれている人を救い上げるシステムができつつあると思う。継続して進めていってほしい。

委員 今センターは寂しい状態になっている。センターのあり方について引き続き検討いただきたい。